

アンノウン・ソルジャー(Unknown Soldier)無名スカウト戦士の善行

ボーイスカウト精神をあらわす三指から生まれた『自分もスカウトで同じスカウトを殺せない』という崇高な行為があった日本兵とアメリカ兵の物語です。

太平洋戦争の末期 南洋の島々で日米両軍の激しい戦いがくり返されていた頃 南洋のウエーク島でソルトレイク市出身のあるアメリカ兵が日本軍と戦闘を交えた際に負傷して気を失い倒れてしまいました。

気が付いた時友軍は引きあげた後で周囲には誰も残っておりませんでした、その時 銃剣を手に恐ろしい顔つきで突撃してくる日本兵の姿が目映りました、地面にたおれている自分の喉元へと銃剣がせまるのを見た時にそのアメリカ兵は再び気が遠くなってしまいました、幼い時からボーイスカウトで活動していた彼はその瞬間無意識のうちにボーイスカウトの敬礼(三指の敬礼)をしていたのでした。

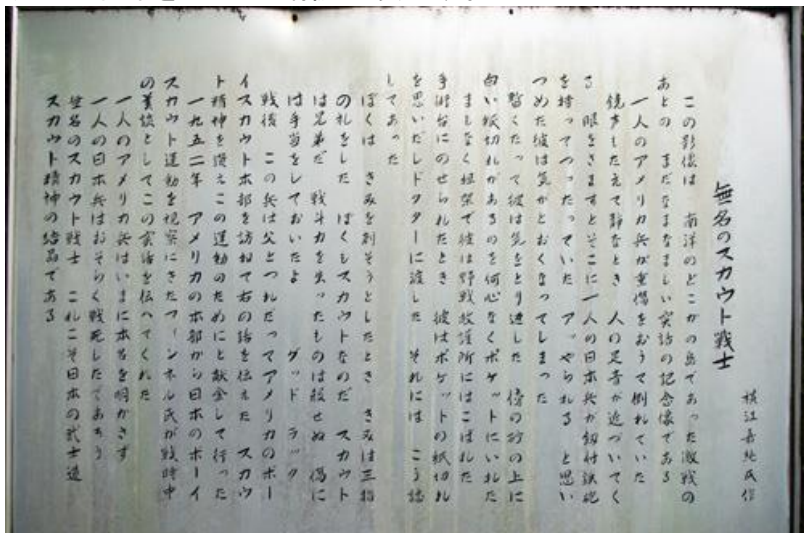
暫くして ふと気が付きました、あたりには誰もいません。「そうだ 傷は？」 見ると立派な手当てがしてありました。起き上がってあたりを見渡すとかたわらの木の小枝にぶら下がっている小さな紙片が目につきました、広げてみると英語で書いてありました。

「私が君に近づいた時、君は三指の敬礼をした。自分もかつては日本のボーイスカウトだった。ボーイスカウトは世界の人すべてが兄弟だ、3つのちかいをあらわす三指を見てスカウトとしての気持ちがよくみえり、兄弟であり、かつ傷ついている君を殺す事は出来なかった、傷には包帯をして手当てをしておいた。一日も早く回復してほしい Good Luck!」

無名戦士の記念碑



- 弾薬庫跡の入口を利用して、三指の礼をするボーイスカウトの銅像と倒れた兵士とその傍らで三指の礼をする兵士の姿のレリーフと由来をつづった銅板があります。



- 銅板には無名戦士の由来がつづられています。
のちに負傷したアメリカ兵は本国に送り返されました。太平洋の孤島での戦場で巡りあったこの日本の兄弟スカウトの話を知ったアメリカ兵の父親は非常に感激し、これこそ真の兄弟愛であるとボーイスカウト・アメリカ連盟事務総長のジャック氏に伝えました、その話が各地で紹介され反響を呼んだのです。

日本連盟の第4代三島総長もアメリカでの世界会議の出席の帰りにアメリカ連盟の本部でジャック事務総長から直接その話を聞き感銘を受けました、三島総長は帰国後その戦場でアメリカ兵を助けた日本兵を探しましたが見つかりませんでした。

おそらく戦死したのではないかとされています、その後日本でも新聞にも報道され日本中のスカウトの募金運動にまで発展し 長く後世に語り伝えようと、第5代久留島総長らが中心となって昭和32年(1957年)のボーイスカウト運動50周年記念事業として、この「ウエーク島」のエピソードをイメージして「無名スカウト戦士」像の制作を彫刻家・横江嘉純氏に依頼し、石膏の型は那須野営場、彫刻は神奈川県横浜市の「子どもの国」に無名のスカウト戦士の記念碑が建てられました。

*ウエーク島: 北太平洋、南鳥島(マーカス島)の東に位置するアメリカ合衆国領の環礁。